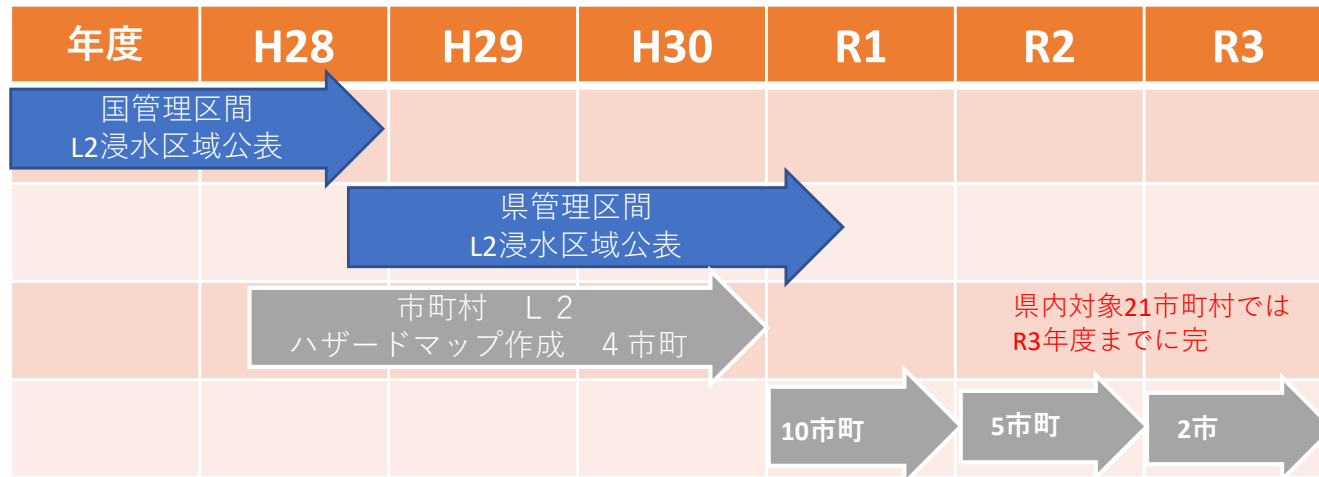


取組（１）水害（災害）に強い人づくりの推進

「県管理河川の想定最大規模の浸水想定区域の指定・公表」  
「市町村への洪水ハザードマップ作成支援」

宮崎県

- 令和元年7月までに、宮崎県が洪水予報河川及び水位周知河川に指定した全35河川について、想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域を指定・公表済。
- 対象となる市町村では、公表した洪水浸水想定区域をもとにした洪水ハザードマップの見直し、令和3年度までにすべての対象市町村で完了予定。



R1.7までに対象河川全35河川で指定完了  
(R1.7.19 宮崎日日新聞)



R1.8.29 大淀川、小丸川・一ツ瀬川実務担当者会議

R1年度洪水ハザードマップ作成にかかる  
勉強会を協議会単位で実施

洪水ハザードマップの作成にあたって 【資料2-1】

水害ハザードマップ作成の手引き概要 (平成26年4月 国土交通省 水管理国土保全局)

【特定のポイント】

- ① 平成27年9月国庫・東本海防費を踏まえ、市町村において「国庫の立派な浸水想定区域」を指定し、これを洪水ハザードマップに活用する。市町村に課税、② 地域により発生する水害の影響やインフラ、財産、組合わせれば様々な被害が生じる。市町村において「国庫」に指定された浸水想定区域を洪水ハザードマップに活用する。市町村において「国庫」に指定された浸水想定区域を洪水ハザードマップに活用する。市町村において「国庫」に指定された浸水想定区域を洪水ハザードマップに活用する。

【作成の手引き】

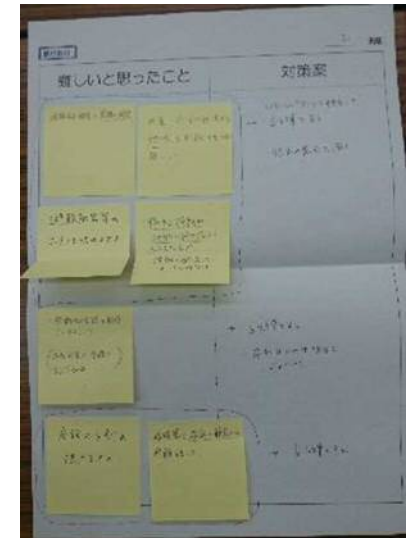
1. 国庫指定された浸水想定区域の抽出
2. 洪水ハザードマップの作成
3. 洪水ハザードマップの公表・活用



R2.2.26 日南市 洪水ハザードマップの見直し  
(R2.3.4 宮崎日日新聞)

「気象防災ワークショップの開催」

- ・ 県では、宮崎地方気象台と連携し、県内3地域において気象防災ワークショップを開催。  
 （県内11市町、宮崎地方気象台、県（危機管理課、河川課、砂防課、土木事務所）、合わせて89名参加）
- ・ ワークショップでは、気象台から発表される防災気象情報に基づく防災対応を疑似体験し、市町村の防災担当者等が、各種の防災気象情報を適切に理解し、体制の強化や避難勧告の発令のタイミングなどに関する検討を行い、判断のポイントを学んでいただくことによって防災対応力の向上を目指すもの。
- ・ 各ワークショップでは、活発な意見交換が行われ、「発令のタイミングの判断の難しさ」「避難エリア決定の重要性」「先読みをすること」などの感想が出され、他自治体との意識共有も図ることができ大変有意義なものとなった。



日向地区 (R1. 7. 30)

日南・串間地区 (R2. 1. 16)

西臼杵地区 (R2. 1. 20)

- ・砂防課では、土砂災害のおそれのある区域の周知や避難に関する知識の習得、地域コミュニティの強化を図るため、マイハザードマップ作成支援を行っている
- ・令和元年度は、都城市と西都市で実施した
- ・令和２年度は、作成支援と事例集の作成・配布を行う

### 作成支援の流れ

1. 事前準備  
地区の選定、資料準備、事前打合せを行う
2. マップ作成  
地区住民へマイハザードマップについて説明し、話し合いながらマップを作成する

#### 都城市の場合

日時：令和元年12月15日  
開催地：乙房地区  
参加人数：25人

#### 住民感想

- ・連絡所の必要性を感じた
- ・危険場所を確認できた
- ・夜に災害が発生した場合も考える必要があると感じた等々…

#### 西都市の場合

日時：令和2年2月1日  
開催地：清水地区  
参加人数：36人

#### 住民感想

- ・早期避難の重要性が再確認できた
- ・緊急連絡網を確認した方がいいと感じた等々…



【作成状況】



【発表状況】



【作成状況】



【発表状況】

「簡易型河川監視カメラの設置」

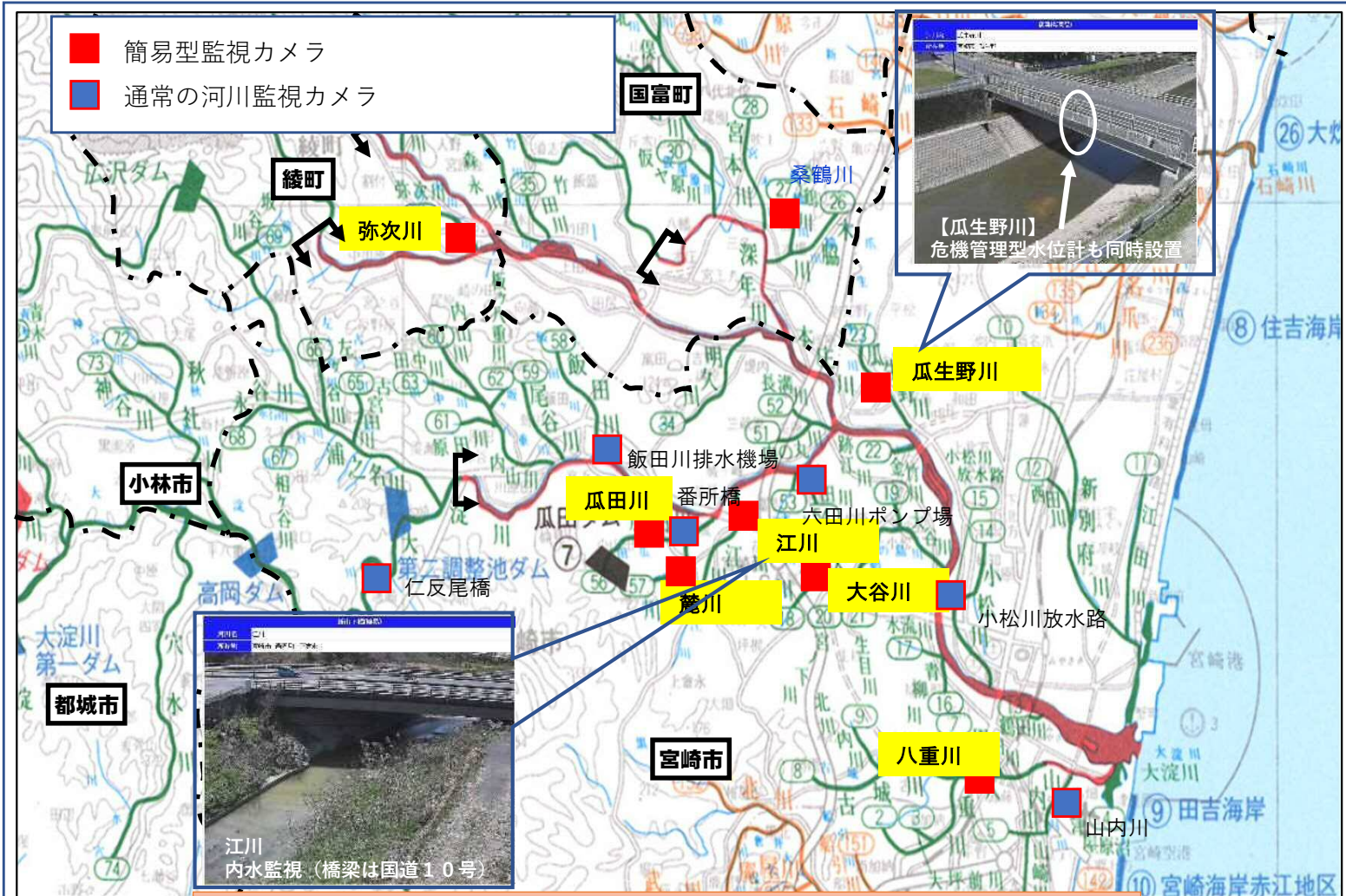
- 平成30年7月豪雨災害の報道等では、「川沿いに設置した監視カメラの映像を見て避難につながった」との事例がある等、「住民に切迫感を伝えるために何が出来るか」が課題となっている。
- 3か年緊急対策では、氾濫の危険性が高く、人家や重要施設のある箇所等に「簡易型河川監視カメラ」を設置。本県では、**従来の監視カメラ63基に加え、簡易型河川監視カメラを新たに27箇所**に設置している。



(設置例) 瓜田川 輪中堤 (内水監視)



(設置例) 大谷川 城の下橋水位観測所



県管理区間における 簡易型監視カメラ設置箇所 (大淀川水系下流の事例)





# 宮崎地方気象台

---

## ⑤防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、防災教育等の推進

○「地方公共団体防災担当者向け気象防災ワークショップ」や「気象庁ワークショップ『経験したことのない大雨 その時どうする?』」を実施し、防災対応力の向上や安全行動のシミュレーションを実施。

### 日向土木事務所での気象防災ワークショップ



進行



グループワーク



発表

#### ■成果

年度当初等に自治体単位でこうしたワークショップを行えると理解も深まると意見もあり、好評であった。

#### ■今後に向けて

引き続き防災気象情報を利活用した実践的なワークショップの取り組みを進める。

### 延岡市自主防災組織での気象庁ワークショップ



西山九州大学助教による講話



栗原気象予報士と気象台職員による進行



グループワーク



発表

#### ■成果

対話形式・他班の話聞いての進行は非常に参考になったと意見もあり、好評であった。



⑧ICTを活用した洪水警報、大雨警報、土砂災害警戒情報等の提供

○防災気象情報の改善として、災害の危険度を地図上にリアルタイム表示する「危険度分布」をスマートフォン版ホームページでも提供し防災気象情報を配信し、GPS機能も活用し現在地の危険度も把握することが可能。

### 危険度分布とは？

雨による災害の危険度を地図上にリアルタイム表示

自分がいる場所の災害の危険度を地図上で確認できます。

雨による災害の危険度が10分ごとに更新されます

※常に最新の情報を確認してください

土砂災害・浸水害・洪水害の3種類

- 土砂災害警戒判定メッシュ情報 (大雨警報(土砂災害)の危険度分布)
- 大雨警報(浸水害)の危険度分布
- 洪水警報の危険度分布

危険度を5段階に色分けして表示

高	極めて危険	→ 重大な災害がすでに発生しているおそれ
高	非常に危険	→ 重大な災害が直ちに発生するおそれ
中	警戒	
低	注意	
低	低	

※高水警報の危険度分布の「今後の情報等に留意」は赤色表示になっていません。

## スマートフォン版ホームページ

災害時

身にせまる災害を一目で確認

宮崎地方気象台  
Miyazaki Meteorological Office

天気予報  
アメダス  
レーダー

大雨警報(浸水害)危険度分布	洪水警報危険度分布
大雨警報(土砂災害)危険度分布	雨の予想(ナツキャスト)

警報・注意報

早期注意情報(警報級の可能性)

火山(霧島山関連)

リンク

アドレス  
[http://www.jma-net.go.jp/miyazaki/smart/sp\\_link.htm](http://www.jma-net.go.jp/miyazaki/smart/sp_link.htm)

宮崎地方気象台

検索

QRコード

お気に入り登録!

天気予報

アメダス

レーダー

毎日の生活情報として

■ 成果

危険度分布や雨の予想により災害の危険度が高まっていることを知ることができ、GPS機能を利用することで現在地の危険度も知ることができる。

天気予報、アメダス、警報・注意報、霧島山の火山情報などをコンパクトにまとめ、容易に情報入手が可能。

■ 今後に向けて

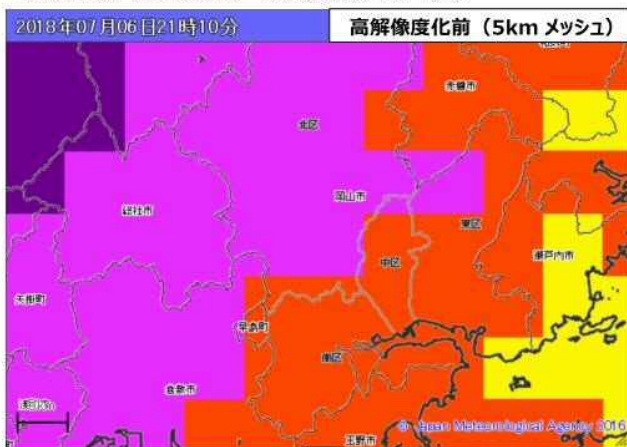
引き続き、出前講座、各種会議等を利用し、利活用や避難について周知啓発を行う。

### ⑧ICTを活用した洪水警報、大雨警報、土砂災害警戒情報等の提供

- 「大雨警報(土砂災害)の危険度分布」(土砂災害警戒判定メッシュ情報)を5kmメッシュ単位から1kmメッシュ単位に高解像度化。
- 「危険度分布」等が示す危険度の変化を、メールやスマホアプリで伝えるプッシュ型の通知サービスを開始。

#### 大雨警報(土砂災害)の危険度の高解像度化

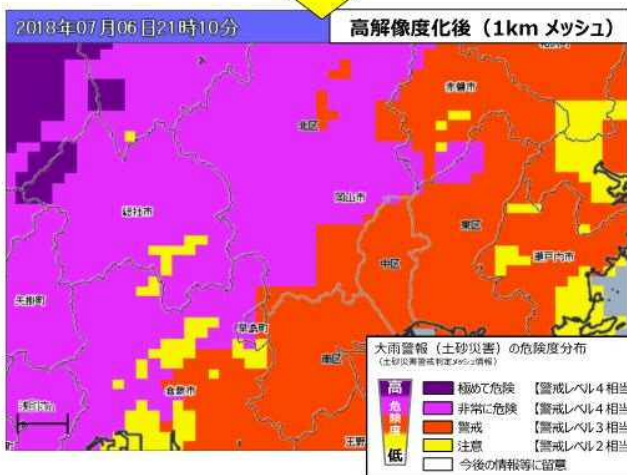
「大雨警報(土砂災害)の危険度分布」の例



#### ■ 成果

高解像度化により住民の避難が必要な範囲をより適確に示すことが可能となり、市町村が避難勧告等を発令する際の対象地域の絞り込みの情報となる。

住民の方々に一層の「我が事感」をもって危険度の高まりを把握いただく等、避難行動の判断の情報となる。



上：高解像度化前の危険度分布(平成30年7月6日の岡山県内の領域について実際に発表したもの)

下：高解像度化後の危険度分布(同領域について事後に再計算して高解像度化したもの)

#### 危険度分布の通知サービス



画像：日田中職員提供(平成29年7月5日)

#### ■ 成果

土砂災害や洪水災害等から避難が必要な状況となっていることにすぐに気付くことができるようになり、自主的な避難の判断に活用が可能。

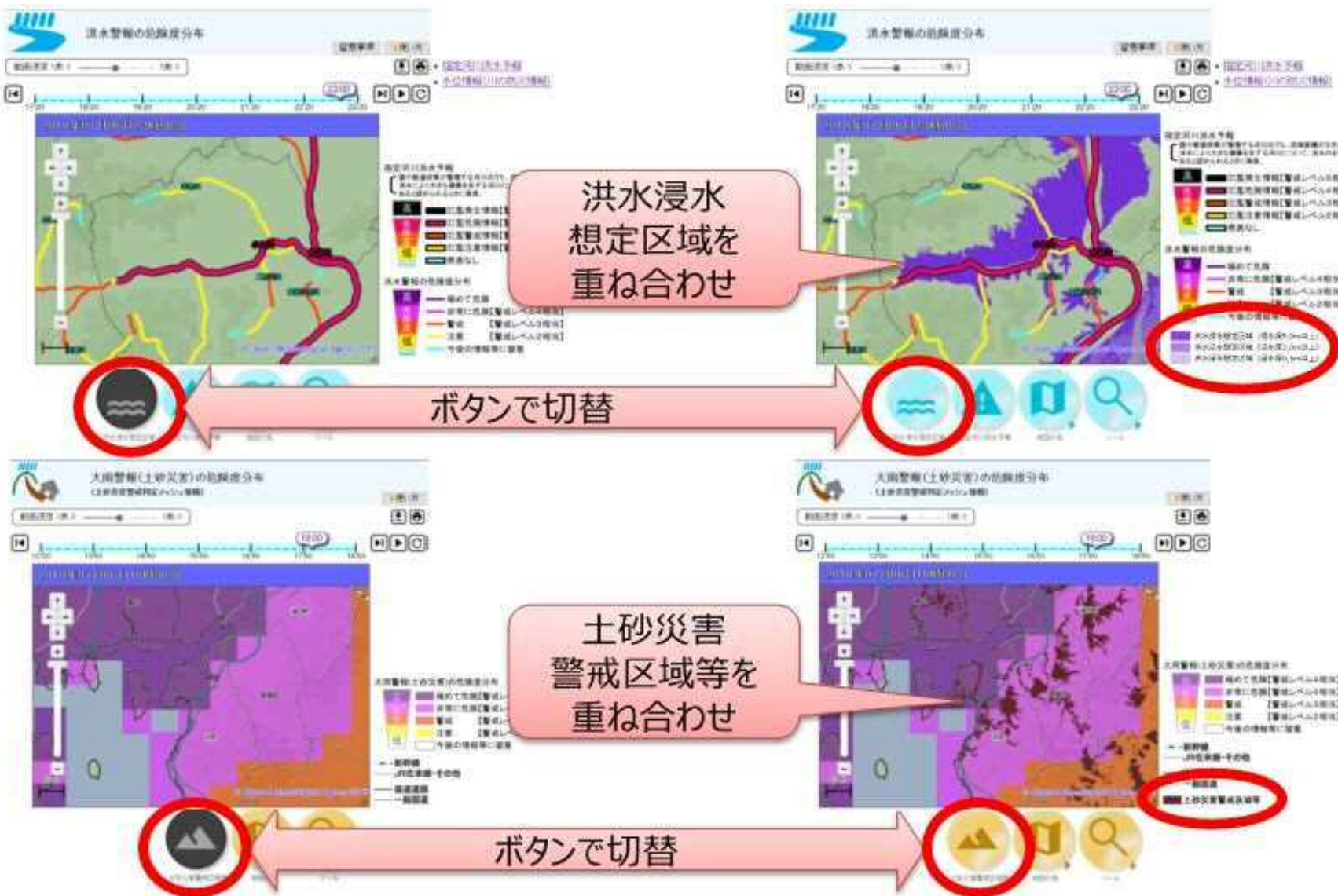
この通知を受信したときには、どこで危険度が高まっているか「危険度分布」の地図で確認し危険な地域を把握。

#### ■ 今後に向けて

引き続き、出前講座、各種会議等を利用し、利活用や避難について周知啓発を行う。

⑧ICTを活用した洪水警報、大雨警報、土砂災害警戒情報等の提供

○大雨の危険度と併せ、危険性も同時に確認できるよう、「洪水警報の危険度分布」及び「大雨警報（土砂災害）の危険度分布」に洪水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域等のリスク情報を重ね合わせて表示できるよう改善。



■ 成果  
「危険度分布」と洪水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域等のリスク情報を重ね合わせて表示することで、住民の自主的な避難の判断や、市町村のより適切な避難情報の発令につながる。

■ 今後に向けて  
引き続き、出前講座、各種会議等を利用し、利活用や避難について周知啓発を行う。